

ハイブリッド電動アシスト自転車 説明書翻訳

INSTRUCTION MANUAL FOR ELECTRIC BICYCLE OF BICYCLE

本取扱説明書には安全、性能、メンテナンスに関する重要な情報が記載されています。
ご使用になる前によくお読みいただき、
大切に保管し必要に応じてご利用ください。

*この説明書には、電動自転車の全タイプに対応した説明書となっておりますので、お買い求め頂いた商品と異なる箇所があります事、ご了承くださいませ。
また、文中において自転車と表記している部分がございます。

最初の使用前にバッテリーを完全に充電してください-バッテリーを初めて使う前及び
毎回使用後に、推奨される充電時間に合わせて完全に充電してください（以下を参照）。
-Li-Ion（リチウムイオン）バッテリー 4～6時間（Via Urbano の場合は 2～3時間）

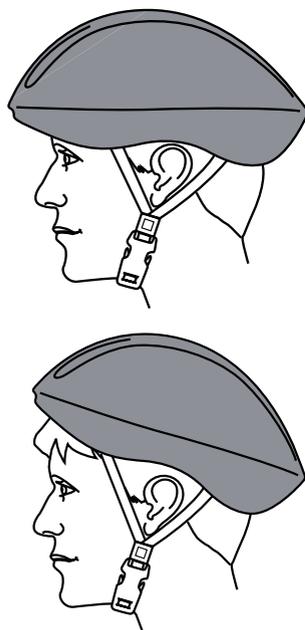
自転車の適切な組み立て、修理、メンテナンスの経験や能力に疑問や懸念がある場合は、
自転車の専門家に相談することをお勧めします。その他の警告/注意事項は、本説明書の
組み立てセクションにあります。

カーテクノロジーのハイブリッド電動自転車は、適切なケアとメンテナンスによって、
より良い使い勝手及び乗る楽しみが得られます。以下に、新しいハイブリッド電動自転車
から得られる楽しみを最大限に引き出すためのポイントをご紹介します。

ハイブリッド電動アシスト自転車の走行距離を最大化するためのポイント

- ライダーの操作-ライダーがより多くペダルを漕ぐほど距離は伸びます。
頻繁に停車・発車を繰り返すよりも、連続的なライディングの方がより
多くの走行距離を得ることができます。
- 標高差-道が平坦であればあるほど、距離も伸びます。
- 天候-寒冷な天候はバッテリー容量に悪影響を及ぼす可能性があります。
- 風-追い風で移動すると移動距離が増加し、向かい風に移動すると減少します。
- 地形-地形が滑らかであればあるほど（例えば一般道路と林道の違い）、
移動距離が長くなります。
- ライダーの重量-ライダーが軽いほど、バッテリーの消耗が少なくなり、
走行距離が伸びます。
- 自転車のメンテナンス-適切にメンテナンスされた自転車は、可能な限り最大の
航続距離を実現します。
- タイヤの空気圧-適切に空気を入れたタイヤは転がり抵抗が少なく、
ペダルを漕ぐのが楽になります。
- バッテリー-適切に充電され、メンテナンスされたバッテリーは、
可能な限り最大の航続距離を実現します。寒冷地（華氏 50 度以下、摂氏 10 度以下）に
保管されたバッテリーは、航続距離が低下します。最適な状態で保管されていない
バッテリーは、航続距離とランタイムが低下します。

HELMETS SAVE LIVES!!!



ヘルメットが命を救う!!!

- 自転車に乗るときは、必ずきちんとフィットしたヘルメットを着用しましょう。
- 夜間走行はしないでください。
- CPSC の記録によると、自転車関連の死亡事故の約 35% は日没後に発生しています。
- 濡れた状態での走行は避けてください。
- CPSC の記録によると、負傷者の約 65% は 15 歳未満の子供です。
- 大人の監督のもとでのみ乗車してください。

正しい装着 - ヘルメットがあなたの前頭部をカバーしていることを確認してください。

不適切な装着 - 前頭部が露出しており、重傷を負う可能性があります。

ご購入の証明として、売上レシートを大切に保管してください。

領収書はこちらに添付してください。

序文

PART 1 バイクモデルショーとツール

PART 2 乗る前に

PART 3 電装品と充電器

PART 4 組み立て

PART 5 整備

PART 6 詳細なメンテナンス

乗る前に

この説明書について

新しい自転車を理解することは、あなたにとって大切なことです。

初めて自転車に乗る前にこの説明書を読めば、新しい自転車の性能、快適性、楽しさをどのようにして得るかを知ることができます。

また、新しい自転車に初めて乗るときは、車や障害物、他のサイクリストから離れた、管理された環境で乗ることが重要です。

全般に適用する警告

自転車の使用は、最高の状況下でも危険な活動である可能性があります。

自転車を適切に整備することは、怪我のリスクを軽減するための責任があります。

本書では、自転車のメンテナンスや点検を怠った場合の結果について、多くの「警告」と「注意」が記載されています。警告や注意事項の多くは、「コントロールを失って転倒する可能性があります」と書かれています。

転倒すると重傷を負ったり、死亡する可能性もありますので、転倒の危険性が記載されている場合には、怪我や死亡の可能性についての説明は割愛します。

保護者の方への特別な注意事項

自転車事故のほとんどが子供を巻き込むという悲劇的な事実があります。

保護者として、あなたは未成年の子供の活動と安全のために責任を負うことになります。

これらの責任の中には、お子様が乗っている自転車がお子様適切に装着されていること、修理状態が良好で安全な動作状態であること、お客様とお子様、適用される地域の自動車や自転車、交通に関する規則だけでなく、安全で責任ある自転車の常識的なルールを学び、理解し、遵守していることを確認することが含まれます。親として、お子様に自転車に乗らせる前に、この説明書をお読みください。お子様が自転車に乗る際には、必ず ANSI、ASTM、SNELL 認定の自転車用ヘルメットを着用させてください。

新しい自転車は、工場で部分的に組み立てられ、その後、出荷のために部分的に分解されています。自転車は完全に組み立てられ、すぐに乗れる状態で購入された場合と、部分的に分解された状態で出荷用のカートンに入っている場合があります。以下の説明を参考にし、長年のサイクリングを楽しむために自転車を準備してください。各部の点検、注油、メンテナンス、調整の詳細については、本説明書の関連セクションを参照してください。本機を正しく組み立てることができない場合は、走行前に資格を持った自転車サービスの専門家に相談ください。交換部品が必要な場合や、自転車の組み立てに関するご質問がある場合は、下記のサービスラインに直接お電話ください。

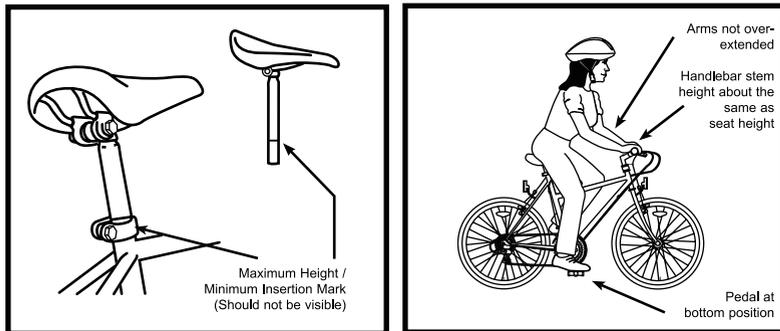
必要な代表的工具

- プラスドライバー
- 2.5mm、3mm、4mm、5mm、6mm、8mm の六角レンチ
- モンキーレンチ、または 8mm、9mm、10mm、13mm、14mm、15mm、17mm のオープンエンド / ボックスエンドレンチ
- ケーブルの切断が可能なペンチ

この取扱説明書の指示に従って自転車の作業を行う場合は、120 ~ 121 ページのトルク値表を参照して、詳細なトルク要件を確認してください。

締め付け不足または締め付け過ぎた部品は、緩んだり破損したりして転倒の原因となることがあります。





Maximum Height/ Minimum Insertion Mark (Should not be visible)

最大高度 / 最小挿入線 (見えないように装着すること)

Arms not over-extended / 腕を伸ばしすぎない

Handlebar stem height about the same as seat height

ハンドルバーのステムの高さはシートの高さとほぼ同じ

Pedal at bottom position / 最下部位置のペダル

乗車位置

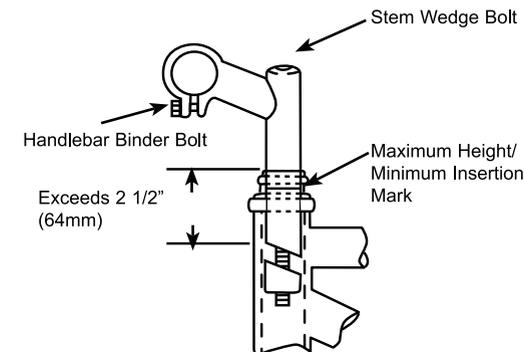
シートの高さ

最も快適なライディングポジションを確保し、最高のペダリング効率を提供するためには、シートの高さをライダーの脚の長さに合わせて正しく設定する必要があります。

正しいサドルの高さとは、脚を伸ばしすぎて脚に負担がかからないようにし、ペダリング時に腰が左右に揺れることがないような状態をいいます。自転車のペダルが最も低い位置にある状態で座り、そのペダルに足の拇指球(親指の付け根の膨らみ)を乗せます。この際膝がわずかに曲がった状態が正しいサドルの高さです。その状態でかかとでペダルを踏んだ場合、足はほぼストレートになるはずですが、

いかなる状況下でも、シートポストの「最大高度線」または「最小挿入線」がフレームから出ないように装着してください。線が見えた状態で装着していると、シートポストやフレームが破損し、制御不能に陥って転倒する恐れがあります。初めて乗る前に、シートクランプを適切に締めてください。シート・クランプやシート・ポスト・バインダーが緩んでいると、自転車に損傷を与えたり、制御不能に陥って転倒する恐れがあります。定期的にシートクランプが適切に締められていることを確認してください。

快適性を最大限に高めるために、ライダーは走行中に手を伸ばしすぎないようにしてください。シートポストに対してシートを変えることでこの距離を調整できます。シートクランプの調整方法については、66 ページを参照してください。



Stem Wedge Bolt / ステムウェッジボルト

Handlebar Binder Bolt / ハンドルバーバインダーボルト

Exceeds 2 1/2" (64mm) / 2 1/2 インチ (64mm) 以上

Maximum Height / Minimum Insertion Mark / 最大高度 / 最小挿入線

ハンドルバーの高さ

通常、ハンドルバーの高さがシートの高さと同じか、それより少し高い場合に最大の快適性が得られます。最も快適なポジションを見つけるために、さまざまな高さを試してみるのもよいでしょう。

スレッドレスヘッドセットとクランプ式ステムは、簡単に調整できません。

取り付け方法については、61 ページを参照してください。

ステムの「最小挿入線」は、ヘッドセットの上部より上に見えないようにしてください。ステムがこのマークを超えて伸びていると、ステムが折れたり、フォークのステアチューブを損傷したりする恐れがあり、コントロールを失って転倒する恐れがあります。

ステムのバインダーボルト、ハンドルバーのバインダーボルト、またはバーエンド延長クランプボルトを適切に締めていないと、ステアリング動作が損なわれ、制御不能に陥って転倒する恐れがあります。自転車の前輪を足の上に置き、適度な力でハンドルバー / ステムをねじってみてください。

前輪に対してステムを捻ることができたら、ハンドルバーをステムに対して回転させるか、バー・エンド・エクステンションをハンドルバーに対して回転させてください。

走行前には、それに応じて適切なボルトを完全に締め付けなければなりません。

安全性チェックリスト

毎回乗車前に、以下の安全確認を行うことが大切です。

1. ブレーキ

- フロントとリアのブレーキが適切に機能することを 確認します。
- ブレーキシューパッドが過度に摩耗しておらず、リムに対して正しく配置されていることを確認します。
- ブレーキコントロールケーブルに潤滑油が塗布され、正しく調整され、明らかな摩耗がないことを確認してください。
- ブレーキコントロールレバーに潤滑油が塗られ、ハンドルバーにしっかりと固定されていることを確認します。

2. ホイールとタイヤ

- タイヤの空気圧が、タイヤのサイドウォールに表示されている推奨空気圧の範囲内であることを確認してください。
- タイヤにトレッドがあり、膨らみや過度の摩耗がないことを確認します。
- リムが真っ直ぐに走行し、明らかなぐらつきやよじれがないことを確認します。
- すべてのホイールスポークが締まっており、折れていないことを確認します。
- アクスルナットがしっかりと締まっていることを確認します。自転車にクイック・リリース・アクスルが装着されている場合は、ロッキング・レバーが正しく張られ、閉じた位置にあることを確認してください。

3. ステアリング

- ハンドルバーとステムが正しく調整されて締め付けられていることを確認し、適切なステアリングができるようにします。
- ハンドルバーがフォークと進行方向に関連して正しくセットされていることを確認してください。
- ヘッドセット・ロック機構が適切に調整され、締め付けられていることを確認します。
- 自転車にハンドルバー・エンド・エクステンションが装着されている場合は、それらが適切に配置され、締め付けられていることを確認してください。

4. チェーン

- チェーンに油が注がれ、清潔でスムーズに動くことを確認してください。
- 濡れた状態やほこりの多い状態では、特に注意が必要です。

5. ベアリング

- すべてのベアリングに潤滑油が塗布されており、自由に動き、余分な動き、研削、ガタつきがないことを確認してください。
- ヘッドセット、ホイールベアリング、ペダルベアリング、ボトムブラケットベアリングを点検します。

6. クランクとペダル

- ペダルがクランクにしっかりと締め付けられていることを確認します。
- クランクが車軸に対してしっかりと締まっていて、曲がっていないことを確認します。

7. ディレイラー (変速機)

- フロントとリアのメカニズムが調整され、正しく機能していることを確認します。
- シフトレバーとブレーキレバーがハンドルバー、シフト、ブレーキに取り付けられていることを確認します。
- ディレイラー、シフト・レバー、シフト・ケーブルとブレーキ・ケーブルが適切に注油されていることを確認します。

8. フレームとフォーク

- フレームとフォークが曲がったり折れたりしていないか確認してください。
- 曲がっていたり、折れている場合は交換してください。

9. 付属品

- すべてのリフレクターが適切に取り付けられていて、見えなくなっていないことを確認してください。
- 自転車の他のすべての取り付け具が適切かつ確実に固定され、機能していることを確認してください。
- ライダーはヘルメットを着用してください。

10. モータードライブアセンブリとスロットル

- すべてのモータードライブコンポーネントが正しく取り付けられ、正しく機能していることを確認してください。

11. バッテリーパック

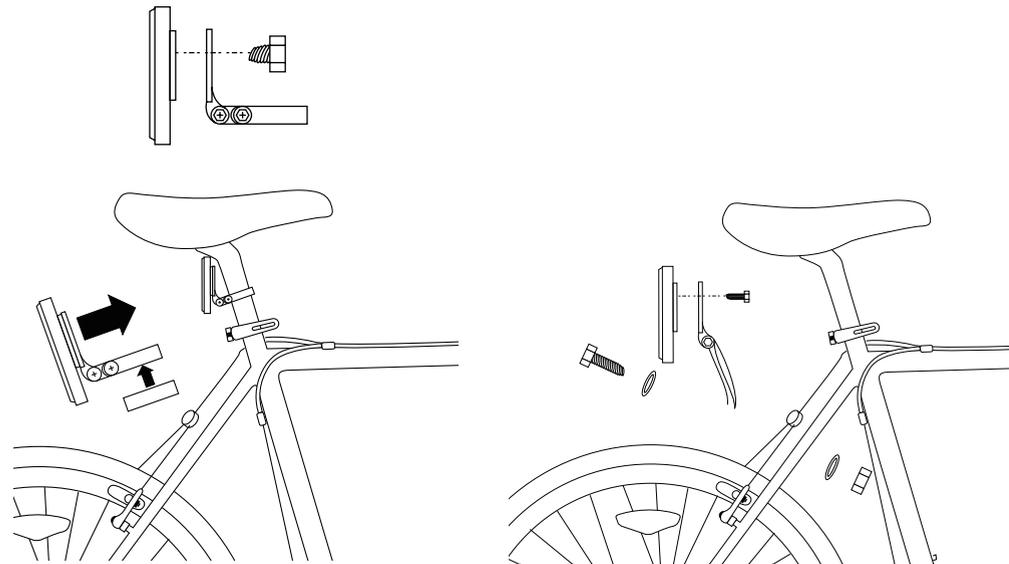
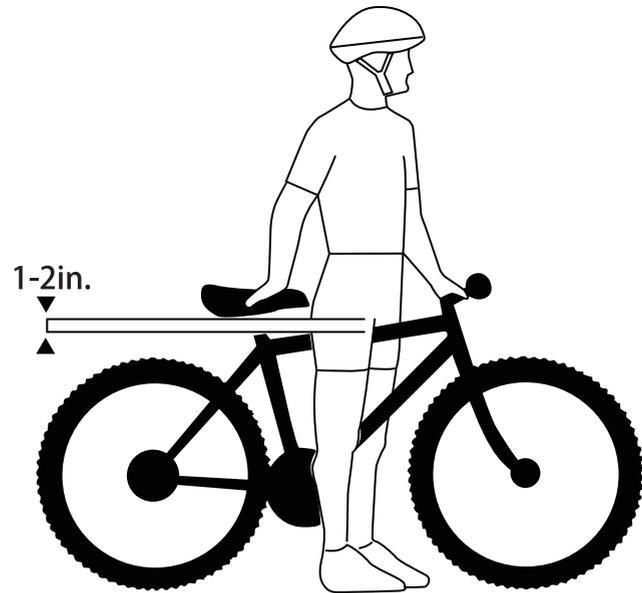
- バッテリーが良好な動作状態であることを確認し、完全に充電されていることを確認してください。

シート及びハンドルバーへのリフレクターの取り付け

まず、下図を参照して、リフレクタネジでリフレクタをリフレクタブラケットに取り付けます。次に、クランプネジを外し、クランプリフレクタブラケットを開きます。クランピング・リフレクタ・ブラケットをハンドルバーまたはシートポストの周りに配置します。クランプが緩すぎる場合は、クランプの内側にゴム製のスピアを挿入します。2番目の図を参照して、クランプネジを締めてリフレクタアセンブリを所定の位置に固定します。最後に、リフレクターアセンブリを所定の位置に調整し、リフレクターアセンブリが直立していて、車体から離れた方向を向いていることを確認します。

シートステーマウントリフレクタブラケットの組み立て

まず、六角ボルトにワッシャーを1枚挿入し、六角ボルトをリフレクタブラケット、シートステーブリッジの順に通します。次に、ボルトに2枚目のワッシャーを挿入し、シートステーブリッジの後ろのボルトに六角ナットをねじ込みます。リフレクターが直立していることを確認しながら、ボルトを締め付けます。右下の図を参照してください。



フレームサイジングガイド

Approximate Rider Leg Length / ライダーの脚の長さの目安

Suggested Frame Size for Racing/touring Bicycle / レース / ツーリング用自転車の推奨フレームサイズ

Suggested frame Size for Mountain, Hybrid, Comfort or Cruiser Bicycle / マウンテンバイク、ハイブリッドバイク、コンフォートバイク、クルーザーバイクの推奨フレームサイズ

Drivetrain / ドライブトレイン (駆動装置)

Freewheel Cogs / フリーホイールのギア

Front Derailleur / フロントディレイラー

Derailleur Control Cable / ディレイラーコントロールケーブル

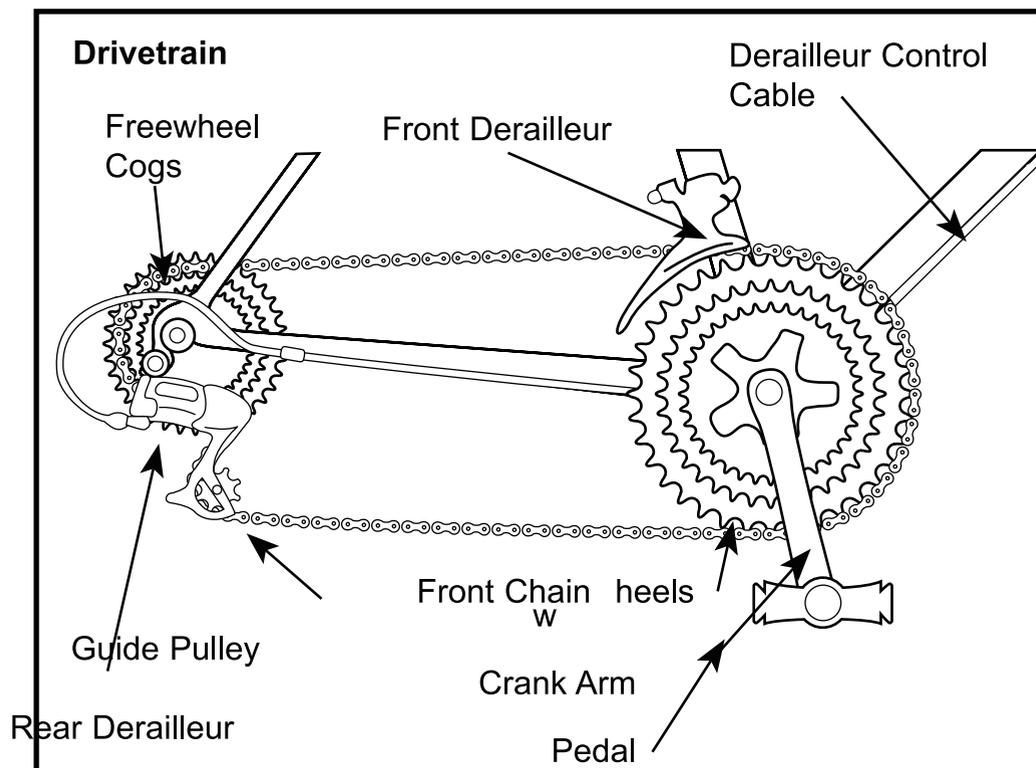
Rear Derailleur / リアディレイラー

Guide Pulley / ガイドプーリー

Front Chain Wheels / フロントチェーンホイール

Crank Arm / クランクアーム

Pedal / ペダル



ギアの操作方法

ディレイラーギア

ほとんどのマルチスピード自転車は、今日はディレイラーギアとして知られているものが装備されています。これらは、異なるサイズの駆動ギアや歯車の間にドライブチェーンを移動するためのレバーやメカニズムのシステムを使用して動作します。

その目的は、さまざまな条件の下で一定の、安定したペダリングペースの維持を可能にすることです。これは、上り坂や下り坂で極端に強くまたは早く漕ぐ、といった無理をしないでも、より楽にライディングできることを意味します。自転車には、ギア構成により5段から30段までの様々な速度設定があります。5段または6段の自転車は通常、単一のフロントチェーンホイールに対して、リアハブ上に5または6つのギア、及びリアディレイラーおよびが付いています。より多くのギアを持つ自転車は、さらに、フロントディレイラー、フロントチェーンホイールに2~3のコグ、およびリアハブ上に最大10のコグが付いています。

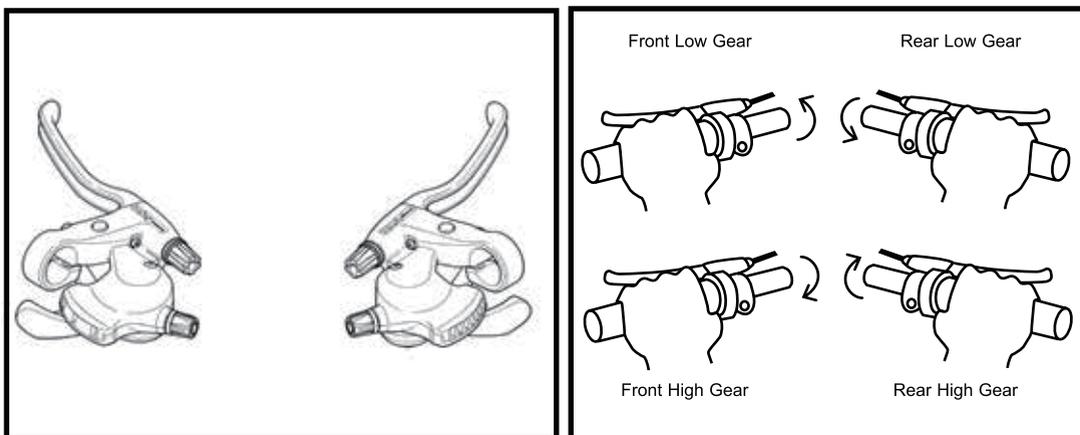
動作原理

ギアの枚数がいくつであっても動作原理は同じです。フロント・ディレイラーは左のシフト・レバーで、リア・ディレイラーは右のシフト・レバーで操作します。操作する際には、必ずペダルを前に漕いでいる必要があります。停車中や後ろ向きにペダルを踏んでいるときは、ディレイラー・ギアをシフトさせることはできません。シフトする前に、ペダリング・プレッシャーを緩めてください。坂道でスムーズなギアチェンジをするには、ペダリング・スピードが遅くなり過ぎる前にギアを下げるようにしてください。停止するときは、低いギアまでシフトしておくと、再び走り出すときに楽になります。ギアチェンジの際に、フロントギアやリアギアから擦れるような音がする場合は、調整が必要な場合があります。バレルアジャスターを使って、ゆっくりと適切にシフターを異音が消えるまで調整してください。最適な性能を発揮し、チェーンの寿命を延ばすために、極端なギア・ポジションの組み合わせを長時間使用しないことをお勧めします (31 ページの図を参照)。シフターとディレイラーの調整は、訓練を受けた自転車技術者が行うことをお勧めします。

バーシフターの下部

現在、多くのマウンテンバイクでは、ハンドルの下側に取り付けられたシフトレバーを、親指と人差し指で2つのレバーを操作します。低いギアを選択するには、親指で大きい方の(低い方の)右シフターを押し、大きい方のリアコグに噛み合わせます。1回強く押しとチェーンが1コグ移動し、押し続けるとチェーンが複数のコグの上を移動します。人差し指で左の小さい方(上部)のシフターを引くと、チェーンが大きい方のチェーンホイールから小さい方に移動します。ハイギアにするには、小さい方の(上部)右レバーを人差し指で引くと、小さい方のリアコグに噛み合います。左の大きい方のレバーを親指で押しと、チェーンが小さい方のチェーンホイールから大きい方に移動します。詳しくは、118-119ページの「仕組み」を参照してください。

フロント・ローギア/リア・ローギア/フロント・ハイギア/リア・ハイギア



ハンドグリップシフター

自転車の中には、ハンドルグリップに内蔵され、別個のレバーを使わない「Gnp シフト™」と呼ばれる変速機構を搭載しているものがあります。作動機構はグリップの内側に組み込まれているので、手で自然に包み込むようになっています。低いギアを選択するには、左のシフターを手前にひねると、大きめのリアコグが噛み合います。グリップシフト™をワンクリックすると1段ずつ変速することができますが、ひねり続けることで複数のギアを変速することもできます。ギアを上げるには、左のシフターを手前に、または手前から遠ざけるようにひねって、より小さなリアコグにかみ合わせます。1回に1クリックずつひねるとシングルシフトになり、より大きくひねるとマルチシフトになります。

タグ・スロットル

PAS センサー・リング

パワーセクターのトグルスイッチです。一部のモデルでは、ON/OFF はバッテリーまたはラック上にあります(マニュアルのバッテリーのセクションを参照してください)。

スロットル

スロットルは電動自転車の一部のモデルに装備されています。スロットルはオートバイのようにスロットルを回転させることによって動作します。

一般的に右側のハンドルバーグリップの内側の半分であり、また、バッテリーゲージが付いている場合もあります。スロットルを多くねじるほど、モーターシステムはより速く自転車を推進します。

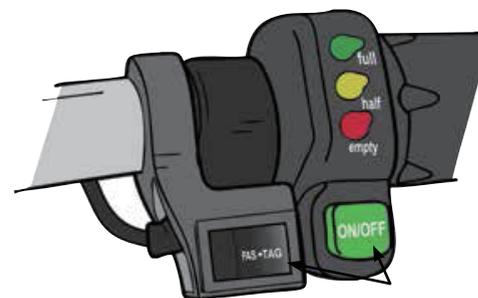
TAG (ツイストアンドゴー)

走り始める前に、主電源スイッチをオンにしてから、通常の電動アシスト自転車と同じように走り始めます。走り始めたら、スロットル(装備されているモデルの場合)をゆっくりと自分の方へひねってください。スロットルをひねればひねるほど、より多くのモーターパワーが車輪に適用されます。モーターを使わない場合に比べて、ペダルの踏み心地が「軽く」なるのを感じるかもしれません。スロットルの使用で、最大時速 18 ~ 20 マイル (28 ~ 32km/h) 程度まで加速します。

最初は電動ではない普通の自転車に乗っているような感覚で走行してください。

数秒後、モーターがゆっくりと作動し、50%のパワーまで上昇します。

その後、ペダルを動かしている間に、ゆっくりとスロットルを自分の方に向けてひねると、モーターのパワーがフルに発揮されます。



Bike Assembly Manual

バイク組み立てマニュアル

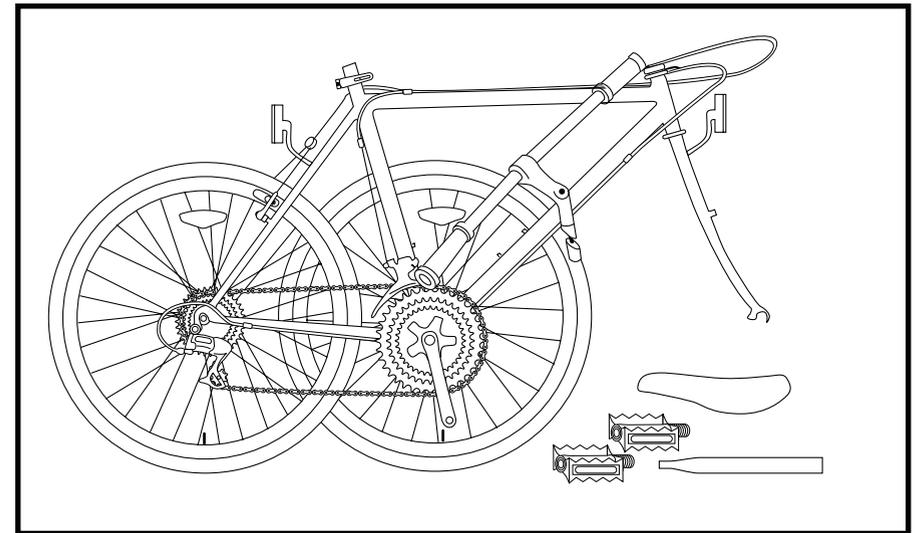
自転車の組立

組立ガイド

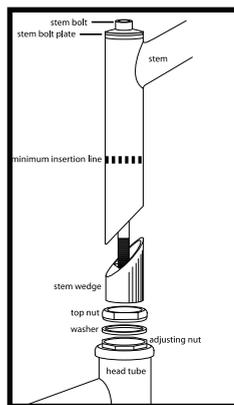
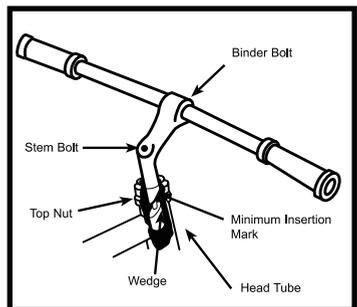
各自転車モデルの個別組み立てガイドは、自転車に同梱されているか、もしくは www.curriotech.com にアクセスしてモデルのページをクリックすることで、オンラインでご覧いただけます。

はじめに

梱包を上から開け、自転車を取り出します。自転車からストラップと保護ラップを取り外します。自転車、すべての付属品、部品が不足していないか点検します。取り付け前に、部品パッケージ内のネジ山とすべての可動部品に注油することをお勧めします。必要な部品が誤って捨てられないように、組み立てが完了するまで梱包材を捨てないでください。注:お使いの自転車には、図示されているものとは異なるスタイルの部品が装備されている場合があります。



ステムボルト	アジャストナット
ステムボルトプレート	ヘッドチューブ
ステム	ステムボルト
最小挿入線	トップナット
ステムウェッジ	最小挿入線
バインダーボルト	ウェッジ
トップナット	ヘッドチューブ
ウォッシャー	



ステムとハンドルバー（スタンダード・クイル・タイプ）
カリーの自転車の多くはこのステムタイプを採用しています。

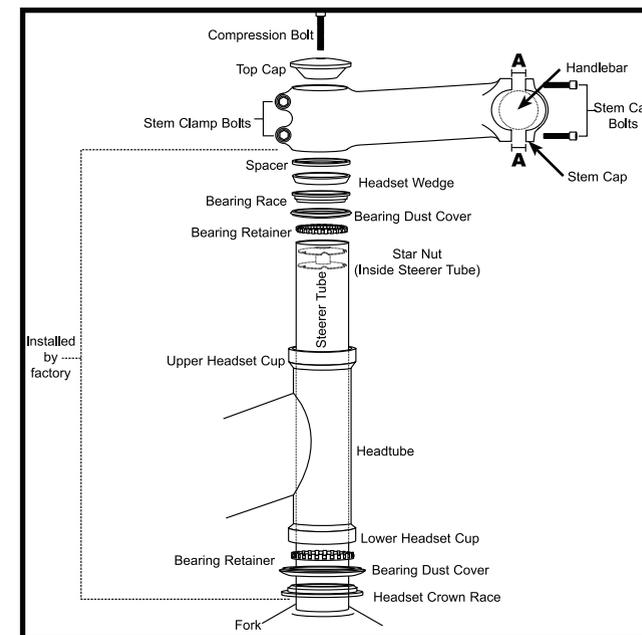
1. ステムウェッジから保護キャップを取り外します。
2. ステムからステムプラグを取り外します。6mm アレンレンチまたは 13mm ボックスレンチでステムボルトを緩めます。
3. ステムを自転車のヘッドチューブに挿入します。最小挿入線がヘッドセットのトップナットの下にあることを確認します。
4. ステムとハンドルバーが前輪と一直線になるように、ステムとハンドルバーの位置を合わせます。
5. 6mm 六角レンチでステムボルトを締めます。ステムプラグをステムに再挿入します。
6. ヘッドセットがスムーズに回転し、トップナットがしっかり固定されていることを確認します。
7. 6mm バインダーボルトを緩め、レバーがハンドルバーの下に 45 度の角度になるようにハンドルバーを回転させます。
8. ハンドルバーがステム内で回転しないように、バインダーボルトを締め直します。

警告：最小挿入線は自転車のヘッドチューブ内に隠れている必要があります。

ステムをトップナットに少なくとも最小挿入線まで挿入しないと、ステムボルトを締めすぎてフォークのステアチューブを損傷する可能性があります。これらの指示に従わないと、安全性が損なわれる恐れがあります。乗っているときは、前輪をまたいでステアリングの締め付けを確認してください。走行前に前輪にまたがってステアリングの締め具合を確認してください。ハンドルを回してみても、もし前輪が回らない場合は、ステムが緩みすぎています。ハンドルバーを前輪に合わせ、ステムボルトを締め直してください。

注：自転車のモデルによっては、角度を調整できるステムが装備されている場合があります。通常の組み立てに加えて、このようなステムの場合は、ステムを希望の位置に角度をつけて、ステムの下にある 6mm の六角レンチボルトをしっかりと締める必要があります。これを怠ると、ステアリングコントロールが失われる恐れがあります。

- ハンドルバー
- ステム・ボルト
- ステム・キャップ
- コンプレッション・ボルト
- トップキャップ
- ステム・クランプ・ボルト
- スペーサ
- ヘッドセット・ウェッジ
- ベアリング・レース
- ベアリング・ダストカバー
- ベアリング・リテーナー
- スターナット
- (ステアラーチューブ内部)
- ステアラーチューブ
- アッパー・ヘッドセット・カップ
- ヘッドチューブ
- ロア・ヘッドセット・カップ
- ベアリング・リテーナー
- ベアリング・ダストカバー
- ヘッドセット・クラウン・レース
- フォーク
- リーインストール



ステムとハンドルバー

(スレッドレス / ヘッドセットステムの取り付け (バイクに組み付け済み))

1. コンプレッションボルトをトップキャップとステムに挿入します。スターナットへのねじ込みを開始します。
2. コンプレッションボルトを締め、フォークからすべてプレイを取り除いても、フォークが回転できるようにします。
3. ステムをフロントホイールに合わせます。ステムクランプボルトを締めて、ステムをステアラーチューブに固定します。

ハンドルバーの取り付け

1. ステムキャップボルトとステムキャップを取り外します。
2. ハンドルバーをステムキャップに挿入します。
3. ステムキャップボルトを均等に締め付けます。ステムとステムキャップ「A」の間の距離は、ステムキャップの上面と下面で等しくなっていることに注意してください。

シートクランプ・ナット
スタンダード・シートポスト
シート固定ボルト
クイックリリースレバー
(両シートポストタイプ共通)
マイクロ・アジャスタブル・
シートポスト



シートとシートポスト

自転車には、スタンダードまたは微調整可能なマイクロ・アジャスタブル・シートポストが装備されている場合があります。

スタンダード・シートポスト

シートクランプのナットを緩めてシートをシートポストに取り付けます。シートポストの先細りになっている方の端を、クランプの上部に来るまでシートクランプに挿入します。シートクランプのナットを部分的に締めてから、シート・アセンブリーを自転車のフレームに挿入し、シートを適切な高さに調整します。シートポストは、少なくとも最小挿入線まで挿入する必要があります。クイックリリース・レバーをクローズの位置まで動かします。レバーを動かしている間、かなりの抵抗を感じるはずですが、抵抗を感じない場合は、レバーを再度開いて締め、クローズの位置まで移動させます。クイックリリースの詳細については、本取扱説明書のクイックリリースの項を参照してください。走行前に、シートがクランプの中心に位置し、地面と概ね水平になるように調整し、クランプ・ナットを均等に締め直してください。サドルが緩んだ状態での走行は避けてください。

マイクロ・アジャスタブル・シートポスト

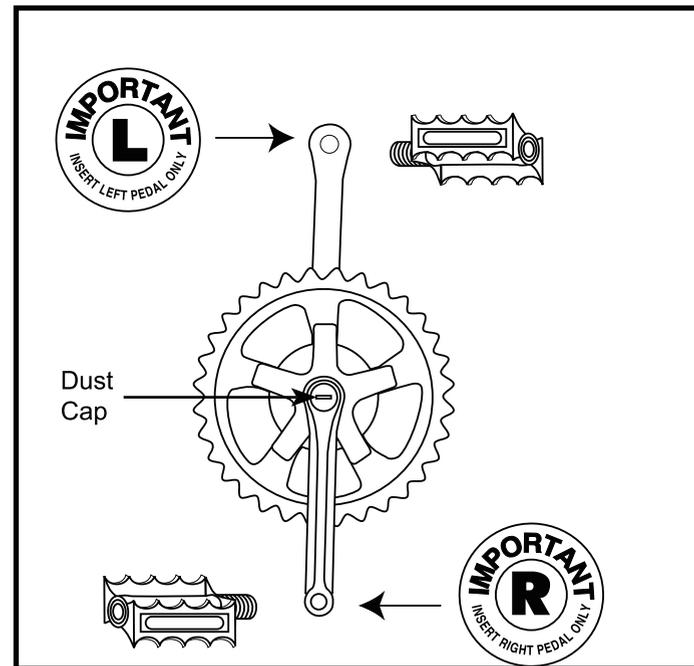
シート固定ボルトを緩め、シートをクランプにスライドさせます。2本のシートレールがクランプの対応する溝に収まるはずですが、通常、固定ボルトを完全に取り外す必要はありませんが、場合によっては必要な場合もあります。シート固定ボルトを部分的に締めてから、シート・アセンブリーを自転車のフレームに挿入し、シートを適切な高さに調整します。シートポストは、少なくとも最小挿入線まで挿入する必要があります。

クイックリリース・レバーをクローズの位置まで動かします。

レバーを動かしている間、かなりの抵抗を感じるはずですが、抵抗を感じない場合は、レバーを再度開いて締め、クローズの位置まで移動させます。クイックリリースの詳細については、本マニュアルのクイックリリースの項を参照してください。シートがクランプの中心に位置し、地面とほぼ水平になるように調整し、走行前にシート固定ボルトを締め直してください。サドルが緩んだ状態での走行は避けてください。

注：自転車のモデルによっては、サスペンションシートポストが装備されている場合があります（次ページの図を参照）。サスペンションポストの中には、プリロード調整ネジを使って剛性を調整できるものがあります。6mm 六角レンチを時計回りに回すとサスペンションが硬くなり、反時計回りに回すと柔らかくなります。

シートポストは、最小挿入線が見えないように挿入してください。走行中にシートが急激にずれないように、クイックリリースシステムをしっかりと締めてください。これを怠ると、自転車が制御不能に陥ることがあります



ダストキャップ

ペダル&クランクセット

各ペダルのスピンドルに刻印されている文字を探してください。（「右」は「R」、「左」は「L」）ペダルのネジ山を傷つけないように、最初はそれぞれのペダルを手でねじ込んでください。

15mmの細いオープンエンドレンチで締め付けます。右側のペダルは、チェーンホイール側のクランクアームに右側（時計回り）のネジで、左側のペダルはもう一方のクランクアームに左側（反時計回り）の逆ネジで取り付けることに注意してください。自転車に乗る前に、クランクセットが正しく調整されているか、締め付けられているかを確認することは非常に重要です。新品のクランクは、最初の使用時に緩んでしまうことがあります。ペダルを取り付けたら、各クランク・アームの中央にあるダスト・キャップを外します。スタイルに応じて、14mmのソケットレンチまたは8mmの六角レンチを使って、スピンドル・ナットをしっかりと締め付けてから、ダストキャップを交換します。

間違ったペダルをクランクアームに取り付けると、ペダルのネジ山が剥がれて取り返しのつかない損傷を与える恐れがあります。初めて乗る前に、ペダルが正しく取り付けられていることを確認してください。

シートポストクランプ-クイックリリース

IZIP および eZip 自転車の多くのモデルには、前輪の取り外しやシートの高さ調整などの一般的な作業を容易にするために、クイックリリース (QR) レバーが使用されています。適切に調整されている場合、クイックリリース・レバーは安全で便利ですが、転倒による大怪我や死亡を防ぐために、自転車に乗る前に適切な調整方法を理解し、適用する必要があります。

クイックリリース・レバーは、ホイールや他のコンポーネントを所定の位置にクランプするためにカムアクションを使用しています。調整可能という性質上、どのように機能するのか、どのように正しく使用するのか、そしてどのくらいの力で固定する必要があるのかを理解しておくことが非常に重要です。

警告。ホイールをしっかりと固定するためには、カムアクションのフルパワーが必要です。片手でナットを持ち、ウイングナットのようにレバーを回すのは、クイックリリースを閉じるための安全で効果的な方法ではなく、ホイールや他のコンポーネントを安全にクランプすることはできません。

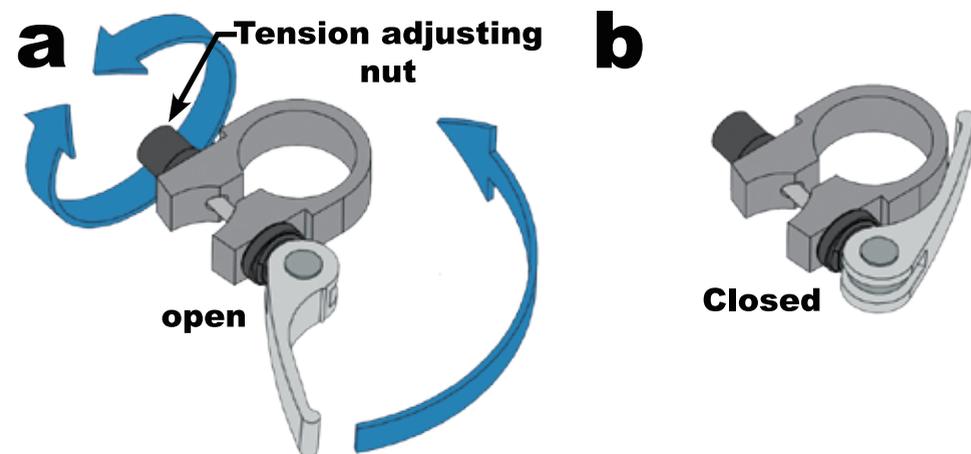
クイックリリースの使用

ホイールのクイックリリースを不適切に調整して走行すると、ホイールがふらついたり、自転車から落ちたりして、重傷を負ったり、死亡したりする可能性があります。そのため、以下の点に注意してください。

1. ディーラーまたは地元の自転車店に依頼して、ホイールの安全な取り付け方、取り外し方を確認してください。
2. クイックリリースでホイールを所定の位置に固定するための正しい技術を理解し、適用してください。
3. 毎回、自転車に乗る前に、ホイールがしっかりと固定されていることを確認してください。

クイックリリース・シートポスト・クランプの調整

シートポストのクイックリリースシステムでは、シートポストは、クイックリリースカムがクランプの一方の側を押し、スキューアを介してテンション調整ナットを他方の側に引っ張る力によって、所定の位置に固定されます。クランプ力の量は、テンションアジャストナットによって制御されます。カムレバーを回転させないようにしながらテンション調整ナットを時計回りに回すとクランプ力が大きくなり、カムレバーを回転させないようにしながら反時計回りに回すとクランプ力が小さくなります。半回転以下の調整であっても、安全かそうでないかのクランプ力の差が生じます。



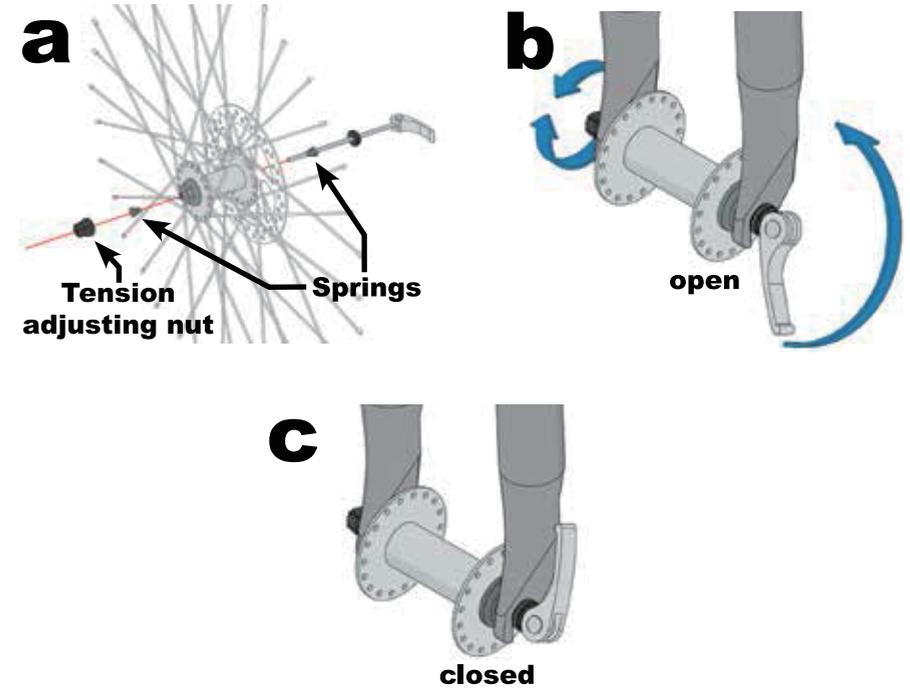
1. クイックリリース・クランプを「OPEN」の位置にして、サドルを取り付けたシートポストを自転車のシートチューブに挿入します。
2. クイックリリース・レバーを「CLOSED」の位置に振ります。
3. 両手でサドルをつかみ、サドルを回転させます
(これによりシートチューブ内のシートポストを回転させます)。
4. シートポストがフレームとずれてしまう場合は、シートポストクランプを調整する必要があります。片手でクイックリリースレバーを「OPEN」の位置にしたまま、もう片方の手でテンション調整ナットを時計回りに約 1/2 回転回して締めます。
5. レバーを「CLOSED」の位置に回してみてください。
レバーを「CLOSED」の位置 (図 b) まで押し込むことができない場合は、レバーを「OPEN」の位置に戻し、テンション調整ナットを反時計回りに 1/4 回転させてから、レバーを再度締めてみてください。適切な張力が得られるまで、ステップ 3、4、5 を繰り返します。

前輪 - クイックリリース

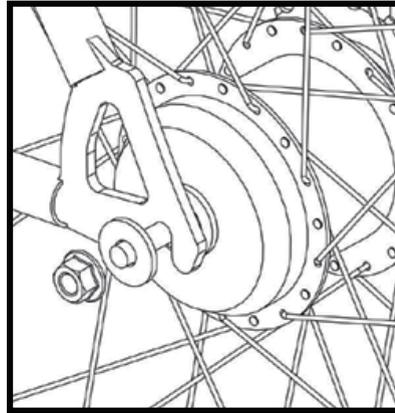
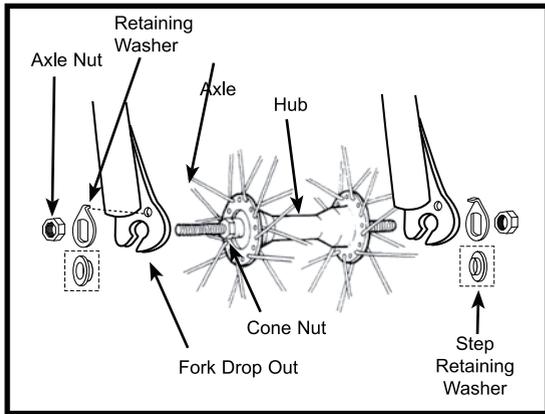
クイックリリースフロントホイールの取り付け

クイックリリースシステムでは、ホイールハブは、クイックリリースカムが一方のドロップアウトを押し、他方のドロップアウトに対してスキュアを介してテンション調整ナットを引っ張る力によって、所定の位置にクランプされます。クランプ力の量は、テンションアジャストナットによって制御されます。カムレバーを回転させないようにしながらテンション調整ナットを時計回りに回すとクランプ力が大きくなり、カムレバーを回転させないようにしながら反時計回りに回すとクランプ力が小さくなります。半回転以下の調整であっても、安全かそうでないかのクランプ力の差が生じます。

1. テンション調整ナットと小さなスプリングを外し、クイック・リリース・スキュアバーをハブに通します。自転車にディスク・ブレーキが付いている場合は、ブレーキ・ローターのある側からスキュアバーを挿入します。スプリングとテンション・アジャストメント・ナットを交換します (図 a)。
2. 自転車にリム・ブレーキが付いている場合は、リム・ブレーキを外して、タイヤとブレーキ・パッドの間のクリアランスを増やします。
3. クイック・リリース・レバーが自転車の左側にあることを確認しながら、ホイールをドロップアウトに取り付けます。
4. 片手でクイック・リリース・レバーを OPEN の位置に保ち、もう片方の手でテンション調整ナットをフォーク・ドロップアウトに対して指でしっかりと締め付けます。
5. ホイールをフォークの溝の上部にしっかりと押し付け、同時にホイールのリムをフォークの中心に合わせながら、クイック・リリース・レバーを上を動かして、CLOSED の位置に振ります (図 b&c)。十分なクランプ力をかけるには、フォーク・ブレードに指を巻きつけて梃子をかけ、その際手のひらにはっきりとしたレバーの痕が残るほどである必要があります。



- 警告：ホイールをしっかりと固定するには、かなりの力が必要です。上記で説明したように、ブレードを利用した梃子の原理を用いずとも絞められてしまった場合は、テンションが不足していると考えられます。レバーを開いて、テンション調整ナットを時計回りに4分の1回転させてから、もう一度試みてください。
6. レバーをフォークの刃と平行な位置まで押し込めない場合は、レバーを OPEN の位置に戻します。その後、テンション調整ナットを反時計回りに 1/4 回転回して、レバーを再度締めつけてみてください。
 7. ブレーキをかけて、ブレーキパッドからリムへのクリアランスを正しくします。ホイールを回転させて、ホイールがフレームの中心にあり、ブレーキパッドがクリアになっていることを確認し、ブレーキレバーを絞って、ブレーキが正しく作動していることを確認します。



アクスルナット
 リテイニング・ワッシャー
 アクスル(車軸)
 ハブ
 フォークドロップアウト
 コーンナット
 ステップ・リテイニング・ワッシャー

ボルトによる取付 - 前輪

1. ホイールがブレーキパッドを容易に通過できる程度にブレーキが緩んでいることを確認します。
2. ホイールをフォークのドロップアウトに入れます。
3. リップがフォークに向かって上がっているリテイニング・ワッシャーを取り付け、フォークブレードの小さな穴に挿入します。注：一部のバイクには、リテイニング・ワッシャーの代わりにステップ・リテイニング・ワッシャー(図の点線のボックスに表示)が付いている場合があります。その場合は、ステップ・リテイニング・ワッシャーを取り付け、盛り上がった部分をフォークのドロップアウトにスライドさせます。
4. アクスルナットを取り付けて締めます。ホイールがフォークブレードの間の中央にあることを確認します。
5. ホイールを回転させて、ホイールが中央にあり、ブレーキシューをクリアしていることを確認します。必要に応じてブレーキを締めます。

前輪と自転車の接続を確認することは非常に重要です。締め付けが適切に行われていないと、前輪が外れてしまうことがあります。

ボルトによる取付 - 後輪

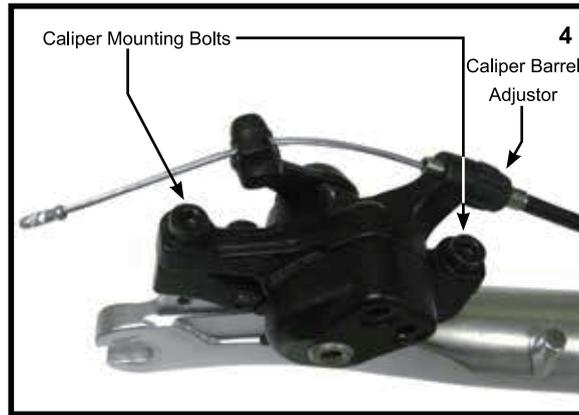
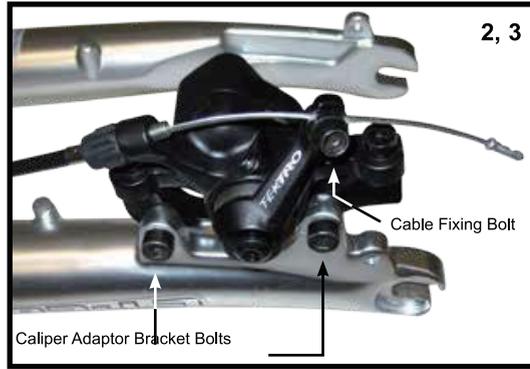
1. 自転車にリム・ブレーキが付いている場合は、車輪がブレーキ・パッドを簡単に通過できる程度にブレーキが緩んでいることを確認してください。ディスク・ブレーキの場合は、調整の必要はありません。
2. ホイールをフレームのドロップアウトにセットします。
3. 車軸の両側にワッシャーをスライドさせます。
4. アクスルナットを取り付け、締め付けます。ホイールがフレームの中央にあることを確認します。自転車を逆さにした方がやりやすいかもしれません。
5. ホイールを回転させて、ホイールが中央にあること、ブレーキシューがクリアになっていることを確認します。必要に応じてブレーキを締めます。



後輪の両アクスルナットはしっかりと締め付けてください。これを怠ると、後輪がフレームのドロップアウトから外れてしまい、重大な損傷や怪我の原因になることがあります。定期的に分解して摩耗や損傷がないか点検し、必要に応じて交換してください。再度取り付ける際には、接続が正しく行われているかどうかを確認することが非常に重要です。

後輪のボルトの取り外し

1. 自転車にリム・ブレーキが付いている場合は、車輪がブレーキ・パッドを簡単に通過できる程度にブレーキが緩んでいることを確認してください。ディスク・ブレーキの場合は、調整の必要はありません。
2. ほとんどの自転車には、シートステイまたはチェーンステイにプラグまたはクイック・ディスコネクト・ボックスが付いています。これにより、モーターをコントローラーから簡単に取り外すことができます。大きなプラグを1つ外すか、黒いプラスチック製のボックスを開けて中の5つのプラグを外すだけです。
3. 自転車をスタンドにかけるかまたは逆さにした状態で、車軸のナットを緩め、自転車からホイールを取り外します。



ケーブル固定ボルト キャリパー取付ボルト
キャリパーアダプターブラケットボルト キャリパー・バレル・アジャスター

ディスクブレーキ - Tektro

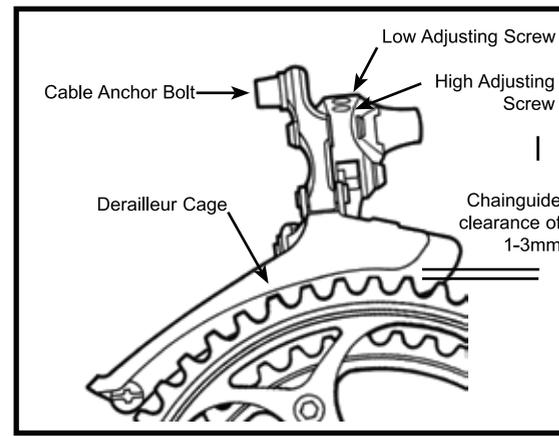
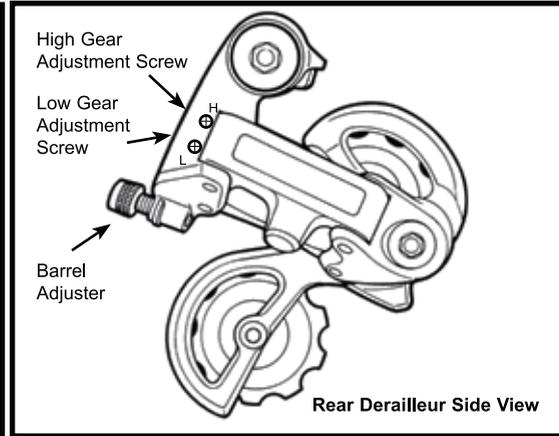
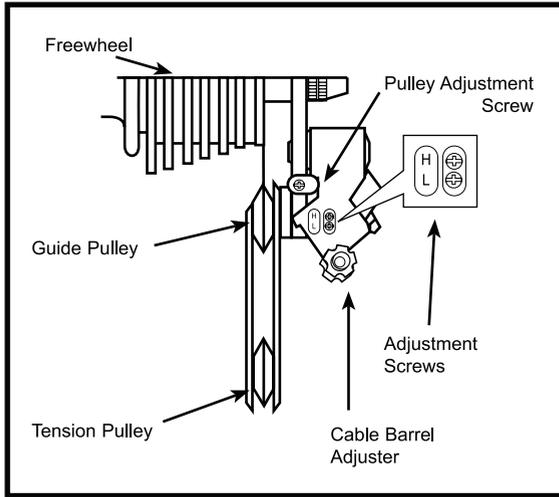
1. ブレーキローターをホイールに固定している 6 本のディスク取付ボルトの締め付けを確認してください。ボルトを取り外す必要がある場合は、再装着時には必ずネジ止め剤を使用してください。
2. キャリパー・アダプター・ブラケットをフォークに固定している 2 本のボルトがしっかりと締まっていることを確認します。
3. ブレーキケーブルを図のようにキャリパーに通し、ケーブル固定ボルトで固定します。
4. キャリパー取り付けボルト 2 本をブレーキ・キャリパーが自由に浮く程度まで緩めます。

5. ブレーキローターがキャリパーのスロットに収まっていることを確認しながら、ホイールを取り付けます。キャリパーをブレーキローターの周りにセンタリングし、キャリパー取り付けボルトを締め付けます。
6. インナーパッド調整ボルトを使って、内側のブレーキパッドを調整し、こすれない程度にローターにできるだけ近づけます。
7. キャリパーバレルアジャスターを使って、外側のブレーキパッドを調整し、こすれない程度にローターにできるだけ近づけます。

ディスクブレーキは慣らしが必要です。下り坂や急停止、その他の深刻なブレーキ操作をする前に、約 13 マイルの間は穏やかに走行してブレーキを使用してください。ブレーキシステムは摩耗の過程で性能が変化することにご注意ください。ディスクブレーキは、初乗車の前にラビング・アルコールを使ってきれいにしておく必要があります。ディスク・ブレーキ・システムのクリーニングにオイルなどは使用しないでください。

ローター（ディスク）には指で触れないようにしてください。油分の多い指は、ローターやブレーキ・パッドをいためてしまい、ブレーキの効果を低下させる可能性があります。

ブレーキローターは熱くなります。熱いローターに触れると大怪我をする恐れがあります。手だけでなく、足にも注意してください。



変則が正しく動作しない自転車には乗らないでください。適正な調整を見落としていると、自転車に取り返しのつかない損傷を与えたり、人身事故の原因になることがあります。後ろ向きにペダルを踏みながらシフターを動かしたり、シフターを動かした後に後ろ向きにペダルを踏んだりしないでください。チェーンを詰まらせ、自転車やライダーに重大な損傷を与える可能性があります。

アンカーボルト デリレイラーケージ 1~3mm のチェーンガイドクリアランス
ローアジャストスクリュー ハイアジャストスクリュー

フリーホイール ケーブルバレルアジャスター
プーリー調整ネジ ハイギア調整ネジ
ガイドプーリー ローギア調整ネジ
調整ネジ バレルアジャスター
テンションプーリー リアデリレイラーサイドビュー

ディレールシステム

デリレイラー・システムには、フロント・デリレイラーとリア・デリレイラー、シフト・レバー、デリレイラー・コントロール・ケーブルがあり、スムーズなギアシフトを実現するためには、これらすべてが正しく機能する必要があります。

デリレイラー

フロント・デリレイラーとリア・デリレイラーは工場調整されていますが、自転車に乗る前に両方のデリレイラーを点検し、再調整する必要があります。

リア・デリレイラー

まずリアシフターを表示されている最大の数字までシフトさせ、リア・デリレイラー・ケーブルアンカー・ボルトからケーブルを緩め、チェーンを最小スプロケットに取り付けます。

ガイドプーリーと最小スプロケットが垂直に並ぶように上限ネジを調整します。ケーブルを締め直し、たるみをなくして、アンカーボルトをしっかりと締め直します。調整した各ギアが静かに、淀みなく動作していることを確認しながら、ギアをシフトします。必要に応じて、バレルアジャスターを使用して、チェーンをあなたが回したい方向に回してケーブルのテンションを微調整します。例えば、時計回りに回すとケーブルの張力が緩み、チェーンはホイールから離れます。反時計回りに回すとケーブルの張力がきつくなり、チェーンはホイールに張り付きます。(続く)

(続き)

リアシフターをギア1にシフトさせ、チェーンを最大のコグの上に乗せます。ガイドプーリーと最大のコグが垂直に揃うまで、ローリミットスクリューを4分の1回転単位で調整します。もう一度、各ギアがスムーズに動くことを確認しながら、何度かギアチェンジを行います。リア・デリレイラーとケーブルが適切に調整されるまでは、何度かトライする必要があります。すべてのボルトがしっかりと固定されており、チェーンがどちらの方向にも外れないことを確認してください。

フロントデリレイラー

両方のシフターを表示されている最小の番号にあわせ、チェーンを対応するコグとチェーンホイールの上に乗せます。フロント・デリレイラー・ケーブルをケーブル・アンカー・ボルトから外し、フロント・デリレイラーの位置を確認します。フロント・デリレイラーは、チェーンを完全に噛み合わせた時に、外側のチェーン・ホイールと平行になり、最大のチェーン・ホイールから1~3mm離れている必要があります。チェーンがフロント・デリレイラー・ケージの中央にくるように、チェーンが最小のチェーン・ホイールの前に、最大のコグが後ろにある状態で、ロー・リミット・スクリューを調整します。ケーブルを再接続し、たるみを取り除いて、アンカー・ボルトをしっかりと締めます。フロント・シフターを最大のチェーン・ホイールにシフトさせます。チェーンが最大のチェーン・ホイールにかからない場合は、かかるようになるまで、ハイ・リミット・スクリューを反時計回りに1/4回転ずつ回します。チェーンが最大のチェーンホイールからはずれてペダルに落ちてしまう場合は、チェーンが落ちなくなるまで、ハイリミットスクリューを1/4回転刻みで時計回りに回す必要があります。

バレル・アジャスターでケーブルのテンションを微調整しながら、すべてのギアをシフトしていきます。フロント・デリレイラーのバレル・アジャスターは、ケーブルがシフターから出ているフロント・シフターにあります。時計回りに回すとケーブルのテンションが緩み、チェーンがフレームに近づき、反時計回りに回すとケーブルのテンションが引き締まり、チェーンがフレームから遠ざかります。

最終チェック

-すべての調整が終わった後、さまざまな速度ですべてのギアを数回シフトさせます。これにより、すべての調整が正しく行われていることを確認することができます。トラブルが発生している箇所を特定することができます。問題が発生した場合は、該当するセクションを参照し、必要な調整を行ってください。

-タイヤ空気圧を確認し、タイヤのサイドウォールに記載されている推奨空気圧まで各チューブを膨らませます。

-キックスタンドがスムーズに作動し、キックスタンドボルトがしっかりと固定されていることを確認してください。

-最後に、自転車を点検します。すべての付属品が取り付けられていること、すべてのクイックリリース、ナット、ボルトがしっかりと締め付けられていることを確認してください。

-自転車を正しくメンテナンスすることで、長年にわたって快適なライディングをお楽しみいただけます。このマニュアルの関連セクションを参照して定期的に自転車を整備するか、専門の自転車店にお持ちください。

-常にヘルメットを着用し、すべての交通法規を遵守することをお忘れなく。

タイヤのサイドウォールに記載されている最高空気圧を超えてタイヤを膨らませないでください。推奨圧力を超えると、タイヤがリムから外れ、自転車に損傷を与えたり、ライダーや周りの人が負傷したりする恐れがあります。

両方の後輪アクスルナットまたはクイックリリース機構をしっかりと締め付けてください。これを怠ると、後輪がフレームのドロップアウトから外れることがあり、重大な損傷や負傷を招く恐れがあります。

バイクの正しい定期メンテナンスは、スムーズな走行-コンポーネントの長持ち

-安全な走行-ランニングコストの削減を保証します。

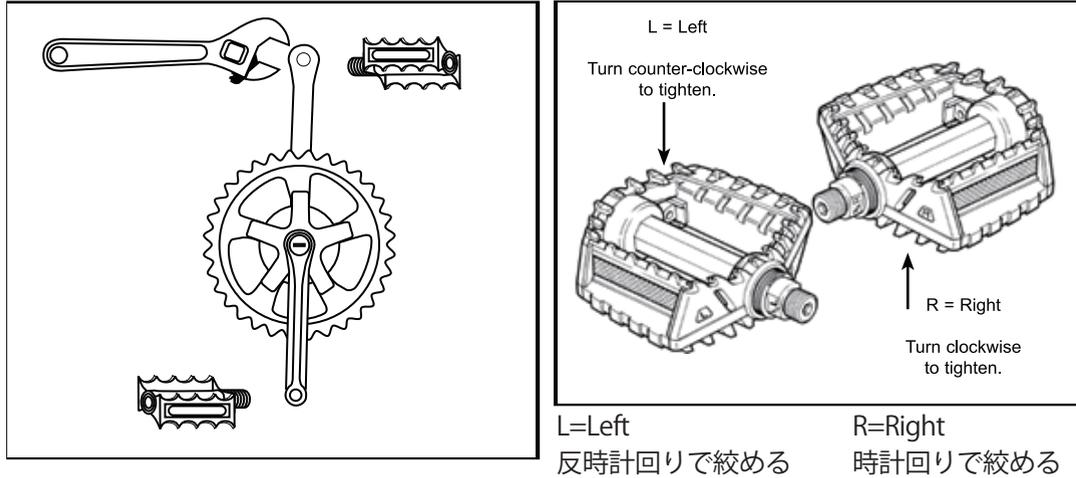
自転車は乗るたびにコンディションが変化します。また、乗れば乗るほどメンテナンスを要する頻度も高くなります。少し時間をかけて定期的にメンテナンスすることをお勧めします。

以下のスケジュールは便利なガイドであり、本マニュアルのパート 6 を参照することで、ほとんどの作業を行うことができます。補助が必要な場合は、自転車の専門家に相談することをお勧めします。

Frequency	Component	Lubricant	How to Lubricate
Weekly	Chain	Chain Lube or Light Oil	Brush On or Squirt
	Derailleur Pulleys	Chain Lube or Light Oil	Brush On or Squirt
	Derailleurs	Oil	Oil Can
	Brake Calipers	Oil	3 drops from oil can
	Brake Levers	Oil	2 drops from oil can
Monthly	Shift Levers	Lithium Based Grease	Disassemble
Every Six Months	Freewheel	Oil	2 squirts from oil can
	Brake Cables	Lithium Based Grease	Disassemble
Yearly	Bottom Bracket	Lithium Based Grease	Disassemble
	Pedals	Lithium Based Grease	Disassemble
	Derailleur Cables	Lithium Based Grease	Disassemble
	Wheel Bearings	Lithium Based Grease	Disassemble
	Headset	Lithium Based Grease	Disassemble
	Seat Post	Lithium Based Grease	Disassemble

Frequency / 頻度	Lubricant	潤滑剤
Weekly / 毎週	Chain Lube or Light Oil	チェーン潤滑油または軽油
Monthly / 毎月	Oil	オイル
Every Six Month / 毎半年	Lithium Based Grease	リチウムベースのグリース
Yearly / 毎年		

Component	構成部品	How to Lubricate	施工方法
chain	チェーン	Brush on or Squirt	ブラシをかける
derailleur pulleys	ディレイラー・プーリー	Oil Can	または吹きつける
derailleurs	ディレイラー	3 drops from oil can	オイル缶
brake calipers	ブレーキキャリパー	2 drops from oil can	オイル缶から 3 滴
brake levers	ブレーキレバー	Disassemble	オイル缶から 2 滴
shift levers	シフトレバー	2 squirts from oil can	分解
freewheel	フリーホイール		オイル缶から 2 吹き
brake cables	ブレーキケーブル		
bottom bracket	ボトムブラケット		
pedals	ペダル		
derailleur cables	ディレイラーケーブル		
wheel bearings	ホイール・ベアリング		
headset	ヘッドセット		
seat post	シートポスト		



ドライブトレイン

自転車のドライブトレインとは、ペダル、チェーン、チェーンホイール、クランクセット、フリーホイールなど、後輪に動力を伝達するすべての部品を指します。

ペダル

ペダルには様々な形状、サイズ、素材があり、それぞれが特定の目的に基づいて設計されています。ペダルの中には、つま先クリップやストラップを取り付けることができるものもあります。これらは、足を正しく配置のを補助し、ペダルを踏む時だけでなく、引き上げる際にも動力を伝えられるようになります。ストラップ付きつま先クリップの使用は、安全にそれらを操作するために、必要なスキルを習得するための練習が必要です。

検査

ペダルは、以下の箇所に注意して毎月点検してください。

- クランクアームの正しい締め付けを確認してください。

緩んでいると危険だけでなく、クランクに取り返しのつかない損傷を与えることになります。

- ペダルのベアリングが適切に調整されていることを確認します。

ペダルを上下左右に動かしたり、手で回してみてください。ペダルベアリングに緩みや粗さを感じたら、調整、注油、交換が必要です。

- フロントとリアのペダルリフレクターがしっかりと装着されていることを確認します。

- また、トー・クリップが取り付けられている場合は、ペダルにしっかりと固定されていることを確認してください。ペダルが緩んでいる状態では絶対に乗らないようにしましょう。

問題点

ギアシフトがうまくいかない

チェーンを滑らせる

フリーホイールのスプロケットやチェーンリングからチェーンが飛び出る

ペダリング時に一定のクリックノイズがする

ペダリング時に研磨音がする

考えられる原因

- ディレイラーケーブルの固着・伸び・破損
- フロントまたはリアディレイラーが正しく調整されていない。
- インデックスシフトが正しく調整されていない
- チェーンリングやフリーホイールのスプロケットの歯が過度に摩耗 / 欠けている。
- チェーンの摩耗 / 伸び - 硬いチェーンリンクがある
- 互換性のないチェーン / チェーンリング / フリーホイール
- チェーンリングが歪んでいる - チェーンリングの緩み
- チェーンリングの歯が曲がるか折れている
- リアまたはフロント・ディレイラーの左右の移動量が調整できない。
- 硬いチェーンリンクがある - ペダルアクスル / ベアリングの緩み
- ボトムブラケットアクスル / ベアリングの緩み
- ボトムブラケットまたはペダルアクスルが曲がっている
- クランクセットの緩み - ペダルベアリングがきつすぎる
- ボトムブラケットのベアリングがきつすぎる
- ディレイラーのチェーンの汚れ - ディレイラージョッキーホイールの汚れ / バインディング

改善方法

- ケーブルの注油・締め付け・交換
- ディレイラーの調整
- インデックス調整
- チェーンリング、スプロケット、チェーンの交換
- チェーンの交換
- リンクの注油または交換
- 自転車屋さんへアドバイスを求める
- 可能なら再度チェーンをはめる、もしくは置換する
- 取付ボルトの締め付け
- チェーンリング / セットの修理・交換
- ディレイラーのトラベルを調整する
- チェーンの注油 / チェーンリンクの調整
- ベアリング / アクスルナットの調整
- ボトムブラケットの調整
- ボトムブラケットのアクスルまたはペダルを交換する
- クランクボルトの締め付け - ベアリングの調整
- チェーンラインの調整 - ジョッキーホイールの清掃と潤滑

問題点

- フリーホイールが回転しない
- ブレーキの効きが悪い
- ブレーキをかけるとキーキーと鳴る
- ブレーキをかけたときのノッキングや揺れ
- ホイールがぐらつく

考えられる原因

- フリーホイール内部のつめピンが詰まっている
- ブレーキブロックの摩耗
- ブレーキブロック/リムに油分が多い、濡れている、または汚れている。
- ブレーキケーブルが束になっている/伸びている/破損している
- ブレーキレバーが締め付けられている
- ブレーキの調整ができない - ブレーキブロックの摩耗
- ブレーキブロックのトーインが正しくない
- ブレーキブロック/リムが汚れているか、濡れているか
- ブレーキアームの緩み - リムの膨らみまたは歪み
- ブレーキ取り付けボルトの緩み - ブレーキの調整ができない
- ヘッドチューブ内のフォークの緩み - アクスルの破損
- ホイールの歪み - ハブが緩む
- ヘッドセットが締め付けられている
- ハブベアリングの故障
- クイックリリース機構の緩み

改善方法

- 注油します。問題が解決しない場合は、フリーホイールを交換します。
- ブレーキブロックの交換
- クリーンブロックとリム
- ケーブルの清掃・調整・交換
- ブレーキレバーの調整
- センターブレーキ
- ブロックの交換
- ブロックのトーインを直す
- ブロックとリムの清掃
- 取付ボルトの締め付け
- ホイールをツルーイングする、もしくは自転車屋さんに修理に出す
- ボルトの締め付け
- ブレーキのセンタリングおよび(または)ブレーキブロックのトーイン調整
- ヘッドセットを締める - アクスルの交換
- ホイールのツルーイング - ハブベアリングの調整
- ヘッドセットの調整 - ベアリングの交換
- クイックリリース機構の調整

問題点

- ステアリングが正確でない
- 頻繁にパンクする

考えられる原因

- ホイールがフレーム内で整列していない
- ヘッドセットが緩んでいるか、締め付けられている
- フロントフォークやフレームが曲がっている
- インナーチューブが古いか、故障している
- タイヤのトレッド/ケーシングの摩耗
- タイヤがリムに合っていない
- 前回のパンク後にタイヤをチェックしていない
- タイヤの空気圧が低すぎる
- スポークがリムに突き出している

改善方法

- ホイールを正しくアライメントする
- ヘッドセットの調整/締め付け
- フレームの再調整のためにショップに持って行く
- インナーチューブ交換
- タイヤ交換
- 正しいタイヤに交換
- タイヤに埋まった鋭利な物体を取り除く
- タイヤの空気圧を正しくする
- スポークにやすりをかける

問題点

自転車の航続距離や速度が低下している
ハブモーターから「カチッ」という音がして、パワーが低下したり、シャットダウンしたりする。
スイッチを"ON"にしても電源が入らない
自転車の動作は問題ないが、バッテリーゲージが点灯しない
バッテリーゲージは点灯するが、自転車が動かない

考えられる原因

バッテリー残量が少ない
バッテリーの故障または劣化
タイヤの空気圧が低い
ブレーキがリムにこすれる
坂道や向かい風などでのライディング
バッテリー残量が少ない
プラネタリ・ギアの破損
ヒューズ切れ
コネクタの緩み
ワイヤーの破損
スイッチの故障
コントローラの故障
コネクタの緩み
ワイヤーの損傷
バッテリーゲージの故障
ブレーキ抑制剤の故障
モーターワイヤーコネクタの緩み
TMM センサーが調整されていない

改善方法

推奨時間内にバッテリーを充電する / バッテリーを交換する
タイヤに推奨圧力まで空気を入れる
ブレーキやリムの調整 / このような地形や気象条件での使用をなるべく減らす
推奨時間内にバッテリーを充電する
ハブモーター / ホイールの交換
ヒューズの交換 / すべてのコネクタの点検
すべてのワイヤに損傷がないか点検する
スイッチを交換して再テスト / コントローラを交換して再テスト
スロットルやバッテリーゲージのコネクタを確認する。
すべてのワイヤーを点検する
バッテリーゲージの交換
ブレーキインヒビターを交換して再テスト
モーターワイヤーコネクタのチェック
TMM センサーの再調整

問題点

ペダルを漕いでいないのにフルスピードで走行する。
自転車は TAG モードでは動作するが、PAS モードでは動作しない。
充電器のポートでのテストでは、バッテリーは満充電を示すが、自転車は動作しない。
スロットルがニュートラルに戻らない（自転車に装備されている場合）。
自転車の動力が途切れ途切れである。
充電器が異常に短い時間でフル充電を示す。
充電器がコンセントに差し込まれているときに充電器のインジケータライトが点灯しない。
充電器（リチウムイオン）表示灯はオレンジ色にのみ点滅し、赤に切り替わらない。

考えられる原因

センサー故障（エンライテンドシリーズ）
スロットルの故障 / コントローラの故障
センサーとセンサーリングの位置が合っていない
「ホワイトボックス」の故障
ヒューズ切れ / コネクタの緩み
バッテリー端子間の接触不良 / グリップがスロットルに引っかかっている
スロットルの故障 / コネクタの緩み
ヒューズの緩み / ワイヤーの損傷
充電器の故障 / バッテリーの故障
コンセントから電力が供給されていない
ヒューズ切れ（リチウムイオン充電器）
充電器の故障
充電器ポートからバッテリーへのワイヤーの損傷
バッテリーの故障

改善方法

センサーを交換して再テスト
スロットルを交換して再テスト
コントローラを交換して再テスト
センサーとセンサーリングの隙間が 1 ～ 2mm になるように再調整
「ホワイトボックス」を交換して再テスト
ヒューズの交換
すべてのコネクタを点検
バッテリー端子の点検と清掃
グリップとスロットルの隙間が 1 ～ 2mm になるように再装着する
スロットルの交換 / すべてのコネクタを点検
ヒューズコネクタの点検 / すべてのワイヤーを点検する
充電器の交換 / バッテリーの交換
コンセントの確認 / ヒューズの交換
充電器の交換 / ワイヤーの点検
バッテリーの交換

鍵は2種類ございます



テールライトについて

テールライトは装着した状態でお届けさせて頂いております。
ボタン電池で点灯しておりますので、電池切れの際は、
新しいボタン電池をお買い求め下さい。



